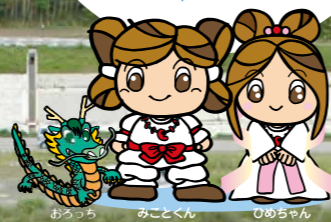


ふれあい放水路

2011 平成23年
ふれあい放水路

vol.194

Izumo Office of River
Chugoku Regional
Development Bureau



お知らせ

宇那手川1号・2号排水門が完成しました
稗原川5号樋門(仮称)が完成しました

特集

- 今年5月の大雨の状況
- 島根県東部に甚大な被害「47水害」



1000年の森づくり

斐伊川放水路事業により生じた斜面を豊かな森へと復元することで、斜面を崩れにくくするほか、多様な生物の育成環境の保全、保水能力向上による洪水の緩和、水質の浄化、地球温暖化を抑えるなど様々な効果が期待されています。

「1000年の森づくり」を行いました

5月31日(火)に今年で13回目を迎える植樹のイベントが行われました。斐伊川放水路事業により生じた人工的な斜面を緑化するため、横浜国立大学名誉教授 宮脇昭氏のご指導のもと、出雲市内の小学生ら約500人が参加しました。タブノキ、モチノキ、ヒサカキなど常緑広葉樹林を15種類、約2,700本の苗を植えました。



緑化活動
ありがとう!



きれいになったね。



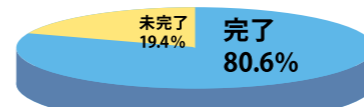
神戸川の清掃活動を行いました

5月28日(土)に神戸川右岸河口付近において、漁協組合や地元住民の方々、放水路事業関係者による清掃活動を行いました。河口部では海や川から流されてきたゴミなどを拾い、漁協組合の船に集積し運び出す作業を行いました。作業後にはかなりのゴミが撤去されとてもきれいになりました。

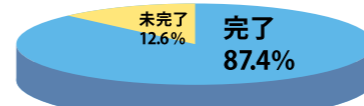
斐伊川放水路分流堰建設工事の進捗状況

分流堰の工事を開始してから2年以上が経過しました。みなさまのご協力をいただきながら、工事は順調に進んでいます。今年度は、ゲートの取り付け工事などを行っています。

分流堰の進捗



コンクリート打設



掘削



上空から撮影

完成イメージ



分流堰は、斐伊川が増水したときに、最大で毎秒2,000m³/sの水を斐伊川放水路に分流させることで、下流の地域を洪水から守ります。

工事の発注情報

- 斐伊川放水路分流堰管理棟 建築工事
H23.2.24~H24.3.31 岩崎建設(有)
- 斐伊川放水路分流堰管理棟 設備工事
H23.2.23~H24.3.31 宍道神州電機(株)



斐伊川放水路の下流から撮影(H23.5.31)



国土交通省中国地方整備局 出雲河川事務所

〒693-0023 出雲市塩冶有原町5-1 tel (0853) 21-1850 / fax (0853) 22-7829
E-mail : izumo@cgr.mlit.go.jp ホームページ <http://www.cgr.mlit.go.jp/izumokasen/>

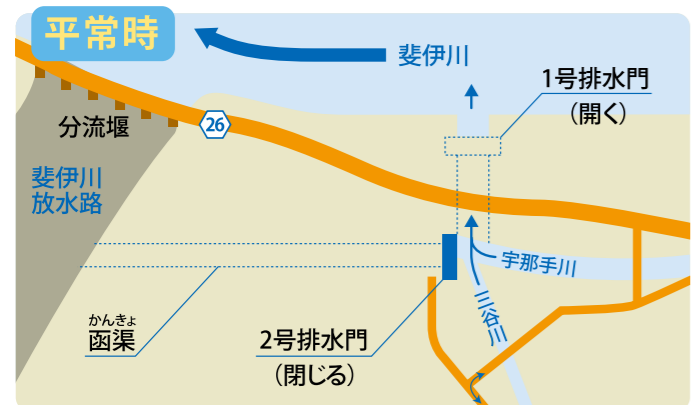
お知らせ

宇那手川 1号・2号排水門が 完成しました

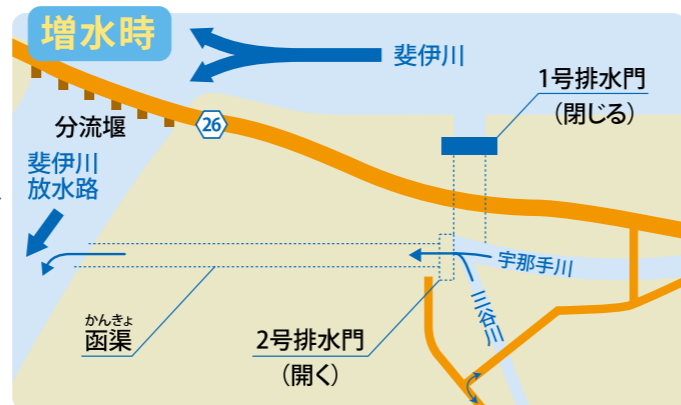
従来は、斐伊川左岸を平行して流れていた宇那手川を、斐伊川本川および斐伊川放水路へ流れるように整備しました。

目的・役割 平常時は、1号排水門より斐伊川本川へ水を流します。増水時には、1号排水門を閉じて水の逆流を防止して、2号排水門より斐伊川放水路側へ水を流します。

工事の概要 場所：出雲市大津町
工期：平成21年9月～平成23年3月



2号排水門を閉じて、斐伊川に水を流します。



斐伊川の水が逆流しないように1号排水門を閉じ、2号排水門から函渠(地下水路)を通して斐伊川放水路に水を流します。



※放水路事業完成後には洪水による宇那手川の増水を防ぐために放水路側へ水を流します。



※放水路事業完成後には洪水による宇那手川の増水を防ぐために放水路側へ水を流します。



今後は、分流堰および県道26号線の整備を進めていきます。

完成イメージ



お知らせ

稗原川 5号樋門(仮称)が 完成しました

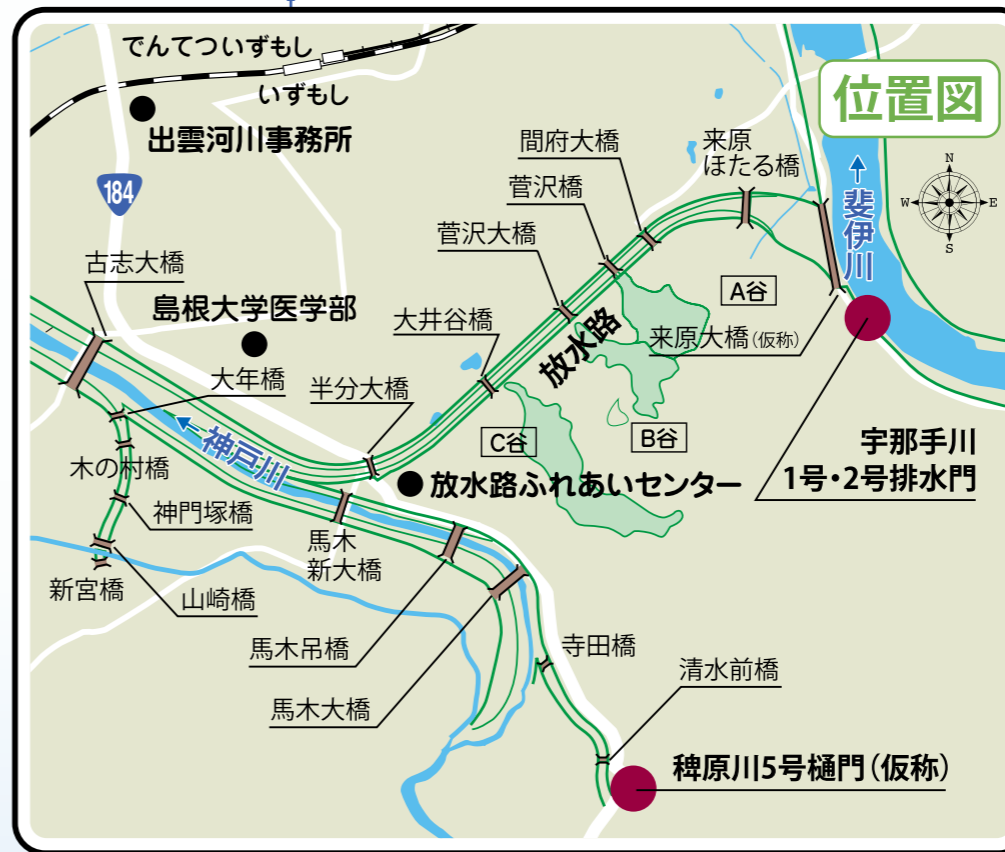
斐伊川放水路事業に伴い、樋門を新しく整備しました。

目的・役割

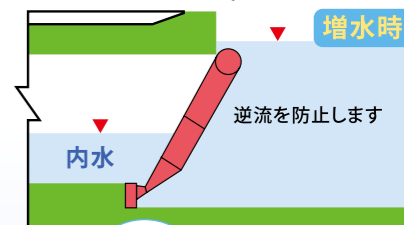
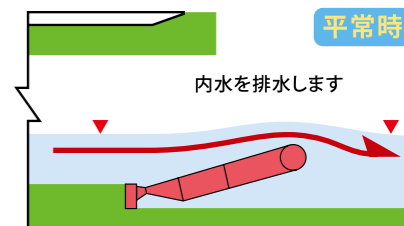
増水時は水位が増えると浮体構造のゲートが自動で閉まり、逆流を防止します。内水はポンプで函渠より排水します。

工事の概要

場所：出雲市稗原町
工期：平成22年11月～平成23年7月



●新樋門の構造(イメージ)



水かさが増すと自動で閉まるよ。



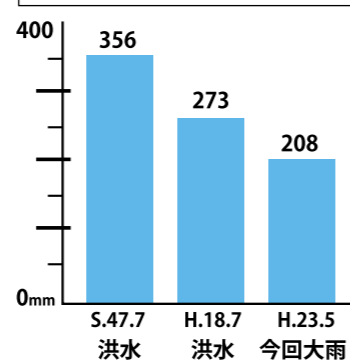
今年5月の大雨の状況

5月11日からの大雨は台風1号の湿った空気により停滞前線が活発となり、出雲地点で日降水量「209.5mm」という観測史上最高の値を記録しました。

時期外れの大雨でしたが、志津見ダム・尾原ダムの貯留による水位低減などの効果により、本来流れてくるはずだった水の量より少ない状況となり下流部の被害が軽減される結果となりました。

今回、日降水量は大きいものの、大津流域での48時間雨量は208mmで、過去に被害をもたらした梅雨時期の出水と比較すると小さなものでした。(右記参照)

48時間雨量(大津流域)



写真/河川敷公園
斐伊川の高水敷にある河川敷公園などが冠水しました。

島根県東部に甚大な被害「47水害」

沖縄が日本に返還された昭和47年、島根県民にとって忘れてはならない、「47水害」から今年で39年が経過します。

その年は7月9日から活発な梅雨前線によって大雨が降り、斐伊川、宍道湖などの水位が上昇し、出雲市、斐川町、平田市、松江市をはじめ宍道湖周辺は大きな被害を受けました。中でも松江市や出雲平野東部地域が7日間にわたって浸水し、県民の生活に大きく影響を与えました。

この水害を機に斐伊川の抜本的な治水計画が策定されました。記憶に新しいところでは、大橋川周辺を中心に松江市街地が2日間にわたって浸水した平成18年7月の大雨が挙げられます。



宍道湖沿岸約70km²が1週間以上も浸水しました。↑出雲空港は10日間に渡り全面閉鎖されました。→

写真/上松江駅前通り
右 出雲空港

特集

